

85th
祝 辞
Anniversary



徳島市民病院設立85周年を祝して

徳島県医師会 会長 川島 周

徳島市民病院創立85周年おめでとうございます。歴代院長並びに関係者各位の設立から今日までの並々ならぬご努力には、心から尊敬申し上げます。また現在では、急性期医療を担う地域の中核病院として、二次救急や周産期医療などに積極的に取り組まれているとともに、医療連携体制の構築により地域医療の発展に多大な貢献を果たされており、深く敬意を表したいと存じます。

さて、皆様ご承知のとおり、日本の医療を取り巻く環境は、非常に危機的な状況に陥っております。地方におきましても、少子高齢化の急速な進行や地域における医師不足などにより、その環境はこれまでにない厳しい状況となっております。そのようななか、徳島県医師会におきましては、県民の皆様のため、より充実した地域医療を確保し、やがて到来するさらなる高齢化社会に向け、保健・医療・福祉の向上に努力していく所存でございます。

医療は、診療所、病院、在宅の切れ目ない連携のうえに成り立っています。徳島県医師会の診療所、病院ともに、徳島市民病院との病診連携を尊重し一人では出来ない医療、チーム医療を行うことによって「医療機関完結型医療」から「地域完結型医療」へと連携できるよう、今後とも協力してまいりたいと考えております。

終わりにになりましたが、85年の輝かしい伝統を持つ徳島市民病院がますますのご発展を遂げられますことを祈念いたしますとともに、引き続き地域医療の発展にご協力賜りますようお願い申し上げます。



徳島市民病院設立85周年記念誌 発刊おめでとうございます

徳島市医師会 会長 豊 崎 纏

この度徳島市民病院創立85周年記念として記念誌を発刊されるに際し、お祝いを申しあげます。

医療情勢の急速な変化の中、85年間の長きにわたり常に先端技術を維持しながら、徳島市のみならず徳島県東部地区の中核病院として大きな役割を果たされてきたことに歴代院長はじめ職員の皆様には心から感謝いたしております。

露口勝徳島市民病院事業管理者が徳島市医師会誌“ぞめき”に4回にわたって執筆してくださった「徳島市民病院85年の歩み」の記述の中にもそのご苦勞の足跡と歴史の変遷を垣間見る事ができました。

現在、院長は市医師会副会長として、そして勤務医の先生たちの中には、徳島市の医師会員としても医師会の各種委員会にそれぞれの専門分野で医師会活動に協力していただいております。また、徳島市医師会が徳島市の指定管理者として運営している夜間・休日急病診療所の小児科診療に出務していただいたりして市医師会員の一人としても大きな役割を担っていただいております。一方、市医師会からは、勤務医の負担軽減のため、月に一度程度ですが、休日の応援診療に医師会員が市民病院救急外来に協力したりして良好な関係が出来ています。

医療が高度化し、受ける側の患者さんも医療に求めることがますます大きく多様になってきています。核家族化・高齢社会による多病・多死の時代となった今、一人の患者さんを全人的に診る包括的医療を一施設で完結することは、人的にも財政的にも不可能です。医療提供の形態は大きく変わってきています。

救急医療、がん診療等急性期の高度医療を受けた患者さんが、スムーズに社会復帰したり、住み慣れた自宅で療養生活を送れ、人生を全うする事が出来るためには、限られた資源を有効に活用しなければなりません。希望される人には多職種連携による切れ目のない医療・介護・福祉サービスが求められています。

徳島市民病院がこのような多職種連携システムの一つの柱として、また地域の中核病院として発展され、今後ますます我々地区医師会と強固な連携で地域住民への充実した医療・福祉サービスに繋がることを願っております。



徳島市民病院設立85周年を祝して

徳島大学病院 病院長 安井 夏生

このたび徳島市民病院が開設85周年を迎えられるにあたり、徳島大学病院を代表して心よりお祝い申し上げます。

私はよく東京出張をします。出張からの帰り道、徳島空港に降り立つと液晶テレビの大画面が鳴り物入りの阿波踊りで迎えてくれます。「ああ、徳島に帰ってきた」とほっとするのは私だけではないでしょう。空港からタクシーに乗り、国道11号線を南下すると今度は眉山が見えてきます。いつも変わらぬその優しい姿には心が安らぎます。車が吉野川大橋にさしかかると左手に見える美しい建物が徳島市民病院です。まさに徳島市の玄関口に位置する市民病院ですが、12階の屋上にはヘリポートが設置され、徳島市内を一望することができます。私は開院式の際に見学させていただいたのですが、北に吉野川、南に眉山を望む大パノラマは壮観でした。このすばらしい景色は患者さんの心に安らぎを与えるだけでなく、職員の皆様にとっても誇りになっていることと思います。

インターネットで徳島市民病院のホームページを開くと「徳島市民病院の歩み」を読むことができます。病院事業管理者である露口勝先生が書かれたものですが、創設期から現在まで、歴代の病院長はじめ諸先輩が苦勞された様子が詳しく述べられています。一人でも多くの患者さんを治したいという職員全員の情熱が現在の市民病院の繁栄につながっているものと確信します。

臨床研修制度が導入されてから若手医師の大学離れは進む一方です。大学病院の元気がなくなれば、結局は県全体の医療に悪影響を及ぼすことになります。大学病院の病院長としては関連医療機関の皆様と手を携えて、大きな観点から人材育成にあたらねばならないと思っています。徳島市を代表する医療機関のひとつである徳島市民病院のご協力をお願いして、85周年のお祝いの言葉に代えさせていただきます。